

「ハラスメンター・パンデミック」

—二稿—

2025/12/31

脚本 太郎

人物表

木原 春人 (40)
淀川 修 (36)
千鶴 (20)

ハラスメント殲滅戦線総隊長
ハラスマント殲滅戦線総隊長補佐
コンビニ店員

1.

ハラスメンター・デスマッチ会場（夜）

プロレスのリングのような場所。四方には観客席。リングの上、ハラスメンターAが倒れている。

向かい合うハラスメンターB、身体をふらつかせ、力なく倒れる。

歓声。

2.

ハラスメンター殲滅戦線本部・会議室

机と椅子が円形に並べられている。座っているのは20人ほどのハラスメント殲滅戦線幹部たち。

プロジェクトからスクリーンに映像が映し出されている。映つているのは柱1と同じ光景。

ハラスメンター殲滅戦線総隊長補佐・東堂修（36）がリモコンのボタンを押すと、映像がハラスメンターバーが倒れたシーンで一時停止される。

東堂 「えー、以上のように」

東堂、机にリモコンを置いて、威厳のある目を前に向ける。

東堂 「前回のハラスメンター・デスマッチを最後に、地上に生息するハラスメンターこと糞どもの絶滅が完了しました」
ざわめき。

東堂、誇らしげな表情。

「我々の掲げる第一目標は見事完遂したのです」

ハラスメンター殲滅戦線総隊長・木原春人（40）、

苦々しげな表情で震えている。

木原、絞り出すように、

「そんなはずはない」

東堂 「総隊長？」

木原、歯を食いしばって、
木原 「探せ。まだいるはずだ」

東堂、困惑気味に、

「ですが、調査部隊の報告では……」

東堂 机に拳を叩き付ける。

全員、ビクリとする。

木原 「奴らがそんな簡単にいなくなるはずがないだろう！ もつとよく探しエツ！」

3. オフィス街・通り（昼）

高層のオフィスビルが並ぶ広い通り。

木原、周囲に血走った眼を向けて歩いている。
やがてビルの一階にあるコンビニに向かっていく。

入店。

4. コンビニ・店内（昼）

客数はまばら。

木原、飲み物のコーナーに向かう。

ジュースを手に取ると、

店員の声 「ちよつと、また間違つてたよ」

木原、声のした方に顔を向ける。

女性店員の淀川千鶴（20）が別の店員を軽く注意している。

木原、嬉しそうな満面の笑み。

5. オフィス街・通り（夜）

退勤した千鶴が外に出てくる。

物陰から、木原他、ハラスマント殲滅戦線の隊員たちが出てくる。

中央の木原以外、デフォルメされた拳に~~○~~マークが描かれたマスクをしている。さらに、全員鉄パイプなどの凶器を持っている。

千鶴、ギョツとして立ち止まる。

木原、凶悪に笑つて千鶴に指をさし、

木原
千鶴
「お前は糞だ」
「え？」

木原、周囲の隊員たちに向けて、

「この女がパワー・ハラスマントの生き残りだ。捕らえ

る」

隊員たちが動き出す。

木原

木原
千鶴

「お前は糞だ」

木原、周囲の隊員たちに向けて、

「この女がパワー・ハラスマントの生き残りだ。捕らえ

る」

木原
千鶴
「え？」

木原、周囲の隊員たちに向けて、

「この女がパワー・ハラスマントの生き残りだ。捕らえ

る」

隊員たちが動き出す。

千鶴の悲鳴。

6.

ハラスメンター殲滅戦線本部・尋問室（夜）

四方にコンクリート打ちっぱなしの壁。

真ん中に、椅子に拘束された千鶴。力なく頭垂れており、顔は殴られた後のように腫れている。

周囲には木原と、数人の隊員たち。

木原 「ようやく吐いたか、しぶとかつたな」

木原、興奮した表情でナイフを取り出し、「とどめは私がさす。文句はないな？」

木原 「ざわつくも、誰も何も言えない様子。

扉が勢いよく開かれ、東堂が飛び込んでくる。

木原 「おや総隊長補佐、遅かつたじやないか」

東堂、木原を睨みつける。

東堂 「白々しい。敢えて私の耳に何も入らぬよう事を進めたのでしょう？」

木原 「言いがかりはよせ、被害妄想はハラスメンターの始まりだぞ」

東堂、納得いかない様子だが、一旦言葉を飲み込み、千鶴を指し示して、

「それより、彼女は本当にハラスメンターなのですか？」

木原 「私を疑うのか？ きちんと本人の自白を引き出したぞ」

木原、千鶴を顎でしゃくる。

東堂 「こんな拷問まがいの尋問で引き出した自白が有効だとでも？」

木原 「さあ？ 我々は別に法律家ではないのでな」

木原、ナイフを持った手を振り上げる。

木原 「もういいか？」

東堂 「待て」

東堂が木原の手を掴む。

木原 「木原、東堂を鬱陶しそうに睨む。」

木原 「何だ」

東堂 「仮に彼女がハラスメンターだとしても、ハラスメンター・デスマッチに参加させずに殺すなど許されない」

東堂の手の力が強くなる。

東堂 「あれは我々の神聖な儀式のはず——」

木原が東堂の手を振り払う。

そして少し考え方、何かを思い付いた顔。

嫌らしく笑い、東堂を指差す。

東堂、いぶかしげに、

東堂 「何ですか？」

木原 「ロジハラだ」

ぎわめき。

東堂 「な……」

東堂 「馬鹿な」

木原、東堂を指差したまま嬉しそうに、

木原 「ツーアウト」

東堂 「は？」

木原 「今馬鹿と言つたな」

東堂 「いや」

木原 「モラハラだ」

ぎわめきが強くなる。

隊員たちは皆顔を見合わせ、どうすれば良いか分からず困っている様子。

東堂、顔をひきつらせて、

「、、、こんな言い分が通るわけ……」

木原、さらに笑みを深める。

木原 「スリーアウト」

東堂 「え？」

木原 「今オドオドしたな？」

東堂 「は？」

木原 「オドハラだ」

東堂、ギョツとして、

東堂 「さすがに聞いたことないぞ」

そこで東堂、ふと思い付いたような顔。

木原を指差し、

東堂 「パワハラだ！」

木原、余裕の笑み。

木原 「無駄だ」

木原の合図で、周囲の隊員たちが一斉に狂氣を振り上げる。

木原 「ハラスメンターにはハラスマント返しあるのみ、だ」

東堂、悔しげな表情。

一転、笑み。

隊員のうち数名が拳銃を抜き放つ。

断続する銃声。

人の倒れる音。

拳銃を抜いた以外の隊員たちが倒れている。

銃口のすべてが木原に向いている。

東堂 「俺の方が一枚上手だったみたいですね」

木原 「東堂、貴様」

東堂 「あなたが、最後のハラスメンターです」

7. (回想) ハラスメンター・コロニー・廃墟(タ)

飛び交う銃声。

東堂修（25）に肩を貸す木原春人（31）。双方負

傷していくフラフラである。

近くで警戒しながら歩いている兵士A、ふと足元に

落ちているスマホに気付き、

拾う。

木原 「馬鹿野郎、ブービートラップだ！」

兵士A 「え？」

スマホのディスプレイにスース姿の中年男性が映り、

正面を指さす。

中年男性 「お前のような無能は明日から来なくていい」

兵士A、吐血して倒れる。

木原と東堂も悲鳴を上げて倒れる。

× × ×

兵士A、明らかに死んでいる。

木原が気絶した東堂を揺すっている。

銃声が近付いてくる。

木原 「東堂、しつかりしろ、東堂」

東堂 気が付く。

東堂 「隊長、先に行つてください」

木原 「馬鹿をいうな」

木原が東堂を助け起こし、再び歩き始める。

木原 「大丈夫、後発隊が到着すればこの程度のハラスメンター・コロニーなんてすぐ殲滅できる。それまで持ちこたえ

ればいいんだ」

東堂 「隊長……」

木原 「お互い大切な人間をハラスメンターに奪われた身だ。共に奴らをせん滅する日を迎えようじゃないか」

8. ハラスメンター殲滅戦線本部・尋問室（夜）

銃声。

床に倒れ、死んでいる木原。

東堂、寂しげに溜息。

木原 「終わりましたね、隊長」

終